

基督教学研究

第 21 号

論文

「緊張」について

——キリスト教思想研究の方法についての一つの省察——……………水垣 渉 ……一

K・バルト「教会教義学」における「キリスト—信仰」について

——実存と救済史との一体性という観点から——……………名木田 薫 ……一

罪の自覚——その人間学的構造 (二)……………内村 公義 ……一

「宗教哲学の新しい可能性」について

——武藤一雄名教授の学問的立場をめぐる断想 (その二)——……………今井 晋 ……一

研究ノート

同一性から複数性へ——ジョン・ヒックのキリスト論——……………小倉 和一 ……一

反省と顕現——リクールの宗教言語論の構造について——……………佐藤 啓介 ……一

懐疑者の義認——前期ティリッヒの義認理解——……………近 藤 剛 ……一

偽ディオニュシオス・アレオパギテース

——「神名論」第二章における神の統一と区分——……………大月 栄子 ……一

彙報

彙報

二〇〇一年度基督教学専修講義題目

片柳栄一 教授 講義 「キリスト教学概論」

特殊講義 「時間論の宗教哲学的課題」

演習 「Augustinus: De trinitate」

芦名定道 助教授 特殊講義 「キリスト教思想における「自然」の問」

演習 「F. Schleiermacher, Der

christliche Glaube, 1830/31」

演習 「日本・アジアのキリスト教

(矢内原忠雄)」

片柳栄一教授・芦名定道助教授

演習 「キリスト教学の諸問題」

大島征二 講師 特殊講義 「共観福音書思想」

落合仁司 講師 特殊講義 「東方神学への集合論的接近」

竹田文彦 講師 講読 「新約ギリシア語講読(ヨハネ福音書)」

勝村弘也 講師 語学 「ヘブライ語文法と講読」

二〇〇〇年度論文題目

修士論文

近藤 剛 「懐疑者の義認―前期ティリッヒにおける信

仰義認論の再解釈―」

佐藤啓介 「中期リクールにおける宗教言語論の二極構

造について」

京都大学基督教学会規約

一、本会は京都大学基督教学会と称し、事務局を京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科キリスト教学研究室に置く。

二、本会は基督教学研究の進展を目的とする。

三、本会は前条の目的を達成するために以下の事業を行う。

(一) 研究発表会、講演会などの開催

(二) 学会誌『基督教学研究』の発行

(三) 内外の研究機関及び研究者との相互交流

(四) その他の必要な事業

四、本会は基督教学研究に従事する者、もしくは本会の趣旨に賛同する者をもって会員とする。入会は委員会の承認による。

五、本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもつてこれに充てる。

会員は年会費五千元を納めるものとする。会員のうち年額一口五千元を二口以上納めるものを維持会員とする。

六、本会の運営のために次の委員を置く。

(一) 代表者 (一名)

(二) 委員 (若干名)

(三) 監事 (一名)

代表者、委員、監事は会員の間から選出し、任期を二年とし、再選を妨げない。

七、本会は毎年総会を開き、会計及び一般報告を行い、必要事項を協議する。

八、本規約は委員会の発議に基づき、総会において変更することができる。

(本規約は一九九八年二月から施行する。)

代表者：小池三郎

委員：高野晃兆、林 忠良、片柳栄一、宮庄哲夫、

勝村弘也、芦名定道、武藤慎一

監事：水垣 涉

執筆 者

水垣 涉 近畿福祉大学教授

京都大学名誉教授

名木田 薫 倉敷芸術科学大学教授

内村 公 義 長崎ウエスレヤン大学教員

今井 晋 同志社大学名誉教授

小倉 和一 京都大学大学院文学研究科後期課程在学中

佐藤 啓 介 京都大学大学院文学研究科後期課程在学中

近藤 剛 京都大学大学院文学研究科後期課程在学中

大月 栄 子 京都大学大学院文学研究科後期課程在学中

『基督教学研究』投稿規定

- 一、寄稿者は本学会員にかぎる。
- 二、内容は未発表の学術論文であること。採否ならびに掲載の時期は、査読委員による査読の報告に基づき、編集委員会が決定する。
- 三、寄稿原稿は、論文については四〇〇字詰原稿用紙四〇〜五〇枚（注・図表などを含む）相当、研究ノートについては三〇枚相当とする。
- 四、寄稿原稿の執筆細目および査読審査規定については、別途、原稿執筆要綱等の内規にて定めることとする。
- 五、寄稿原稿には、欧文タイトル、執筆者欧文氏名を付記すること。
- 六、原稿が採用された場合、執筆者には抜刷三〇部を贈呈する。（本規定は二〇〇〇年二月一六日から施行する）

第二十一号編集実務委員会

小池三郎
高野晃兆
林野忠良
片柳栄一
宮庄哲夫
勝村弘也
芦名定道
武藤慎一

二〇〇一年十二月二十日印刷
二〇〇一年十一月三十日発行

定価一五〇〇円(十税)

発行者

京都大学基督教学会
京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科
キリスト教学研究室内

発行人

小池三郎

発売元

㈱一麦出版社
札幌市中央区南8条西25丁目2-12

印刷所

㈱アイワード

本誌の御註文は、最寄のキリスト教書店、
もしくは、右記、京都大学基督教学会(振
替〇一〇三〇一五七二〇七)へ、送料と
も一七一〇円(本体価格一五〇〇円、送料
二二〇円)を添えてお申込み下さい。

JOURNAL
OF
CHRISTIAN STUDIES
KIRISUTOKYOGAKU KENKYU

Vol.21

December, 2001

Contents

- On "Tension (tonos)"*
—Some methodological reflections on the
Christian way of thinking—Wataru Mizugaki
- On the Christ-faith in Church Dogmatics by K. Barth—from the
standpoint of the oneness of existence and salvation history*
.....Kaoru Nagita
- The Awareness of Sin—Its Anthropological Structure (II)*
.....Kimiyoichi Uchimura
- Über die neue Möglichkeit in der Religionsphilosophie*
.....Susumu Imai
- From Identity to Plurality—Survey of John Hick's Christology*
.....Waichi Ogura
- Reflexion and Manifestation: On the Structure of
Ricoeur's Religious Thought*Keisuke Sato
- Rechtfertigung des Zweiflers: Paul Tillichs Rechtfertigungslehre*
.....Go Kondo
- Pseudo-Dionysius on the Unities and the Differentiations of God in
the second chapter of De Divinis Nominibus.*Eiko Ootsuki

THE SOCIETY OF CHRISTIAN STUDIES
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto Japan